

「秋の東北鉄道旅行 (6)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

東北新幹線を走る大宮以北の新幹線は、現在「はやぶさ (主に新青森・新函館北斗行)」「やまびこ (主に盛岡行)」「つばさ (主に山形行)」「こまち (主に秋田行)」「なすの (主に郡山・那須塩原行)」そして「はやて」がある。「はやて」は、かつては東京駅でも見られたが、現在は盛岡以北だけで、朝夕の2往復しか存在しない。乗るチャンスの少ない「幻の新幹線」だ。



嬉しいことに、盛岡発の下り一番の新幹線は「はやて号」だ。早朝の区間運転のような扱いだ、編成はグランクラス・グリーン車・普通車すべて指定席だ。私が持っていた「東日本フリー切符」は、指定席にも4回乗れるが、すでに枠いっぱい予約してしまった。本来この全車指定席の列車には乗れないのだが、特例で、空席があれば座って良い規則になっている。



早朝の下りなので、空いているとは思ったが、念のため、指定席券売機で空席を調べておいた。進行右側の3列席がガラガラに空いている。私は一番右のA席に座ることにした。



この「はやて」は盛岡以北の全部の駅に停車する。このあたりの車窓風景は、東北新幹線でも特に寂寥とされているように思う。七戸十和田には数年前に友人(天体写真家)の葬儀の時に一度降りたことがある。



新青森駅には定刻に到着した。東北新幹線と奥羽本線の接続の為に、青森駅より少し西寄りに造られた駅だ。ここで奥羽本線の各駅停車に乗り換える。



新青森駅のコンコースでは、さっそく「ねぶた」の飾りが出迎えてくれた。こういう駅の飾りつけは、特に私のように「特急旅行者」にとっては、大変有難い。「そこまで行った証拠」になるからだ。